

学力向上だより

氷見市教育総合センター

調査研究事業「第1回学力向上推進委員会」の開催

4月30日（火）



〈学力向上推進委員会の様子〉

本年度、調査研究事業として、新たに「学力向上推進委員会」を立ち上げ、児童生徒の学力の底上げを目指して事業を推進していきます。第1回学力向上推進委員会では、事業内容の確認と年間の活動計画の共通理解を図りました。推進委員長をはじめ、小学校4名、中学校2名の推進委員の皆さんの協力によって、学力向上に向けた取組を行っていきます。

◎委員長 焼田ちあき（南部中教頭）

[委員]

- ・丸山めぐみ（朝日丘小） ・廣澤 裕文（比美乃江小）
- ・竹原 瑞樹（十二町小） ・藤坂 賢良（上庄小）
- ・三崎 篤志（北部中） ・瀬戸いずみ（十三中）

主な取組

- 全国学力・学習状況調査結果の分析
- 「学力向上だより」等での啓発
- 学習の確認問題の作成・配布

令和のとやま型教育推進事業

第1回教育実践研究会「西の杜学園」の開催

6月21日（金）

公開授業 2年 算数科 単元名「100より大きい数をしらべよう」授業者 平島 康裕 教諭

【本時の学習】（7/12時）

目標：数の構成に着目し、780の多様な見方について考え、説明することができる。

【研究の視点を基にした授業の工夫】

○考えを広げ、深めるための対話の場の工夫

- ・数のもつ意味や友達の考えをイメージできるように、具体物を使った操作活動を取り入れる。
- ・考えを広げ、深めるためにペアと全体での話し合い活動を大切にする。

○身に付けたことを自覚させ、振り返る場の工夫

- ・学習の足跡や、積み重ねが分かる振り返りのためのワークシートを活用し、振り返りを蓄積することで、次時からの学習に生かすことができるようにする。
- ・「自分の発見」「友達のよさ」「次回に向けて」等、視点を示して振り返り、毎時間積み重ねることで、考えが変容したこと等に気づき、自分の成長を実感できるようにする。



〈2年算数科授業の様子〉

公開授業 7年 社会科 単元名「世界各地の人々の生活と環境」授業者 高井 健太郎 教諭

【本時の学習】（6/8時）

目標：高地の人々の生活の工夫について、アンデス山脈の人々の衣食住と自然環境との関わりに着目し、自分の言葉で適切に表現することができる。

【研究の視点を基にした授業の工夫】

○考えを広げ、深めるための対話の場の工夫

- ・本時では、「個→グループ→全体→個」と学習形態を変化させることで、他者の考えを自分の学びに生かしながら個の学びが深まるようにする。

○身に付けたことを自覚させ、振り返る場の工夫

- ・毎時間の終末に、学習活動について振り返る活動を行う。その際にICTを活用することで、他の生徒の考えや疑問に思ったこと等を、その場で共有することができるようにする。
- ・Forms のアンケート機能を用いて、Excel シートに自分の記述を蓄積し、いつでも見返せるようにすることで、自己の学びを確かなものにし、自分の考えの変容や成長を実感できるようにする。



〈7年社会科授業の様子〉

講演 講師 岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 玉置 崇 先生
演題 「主体的・対話的で深い学びを生み出す方策 — ICT活用も踏まえて—」



＜玉置先生による講演＞

講演では、「主体的・対話的で深い学び」を生み出す方策として、次のことについて学びました。（以下、概要）

「子供が話をしやすくなる授業のテクニック」…①「ペア同士で話し合いなさい」と言うより、互いに声を出し合うよう、「あなたは何ですか」「難しそうだね」と、「話し合いのきっかけ」を与える。②子供が楽しく話をしている場面で、教師が「意見が言える人」と声かけするのは、禁句である。③子供のよい姿や言動を見付けて価値付けし、「どんな話をしていたの」と、褒めながら意図的指名をする。

「対話的な学び」…自己が思っていることを言い合うだけでは、「会話」である。互いの話をよく聞き、異なる視点を得て、自己の考えを広げ、深めることが「対話」である。

【対話ができるようになるポイント】…①対話のイメージをもたせるために、よい対話をしている場面を捉え、価値付ける。また、教師が求めている対話について、よりレベルが高い具体例を示して伝える。②対話の原点である「分からない」と言える子供を育てる。小グループで、隣や近くの人に小さい声でも「分からない」と言えるようにする。③対話の形をとらなくても、教師が子供と子供をつなぐようにする。子供同士が評価し合い、対話することのよさを実感できるようにする。

【自己選択する場面をつくる】…「主体的な学び」を実現するには、授業の中に、自己選択させる場面をつくる。教師から常に指示されて行う学習では、子供は育たない。

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価】…「学習に関する自己調整」や「粘り強さ」という意識的な側面を評価するためには、「書くなど（出力）」の振り返りが必要である。

【子供に「振り返り」の楽しさを伝える】…「今日の授業でしかないこと、心が動いたことを書いておこう」「難しいと思ったこと、〇〇さんの考えのよかったこと、もっと〇〇してみたいこと、心に浮かんだことを書いておこう」などと投げかけ、書く活動を通して振り返ることは、楽しいと伝える。

【振り返りと ICT 活用】…振り返りシートを子供同士が共有できるよう ICT を活用し、みんなで読み合うことで、互いに気付きを得て、子供は自分で学び取っていくようになる。時には、「子供のよい振り返り」について教師が形成的評価（価値付け）を行い、繰り返すことで、子供が育っていく。

【子供同士がつながる ICT 活用】…自分の考え等を端末の付箋紙に記述し、一斉に皆で読み合う。他の文章や考え、結果、表現の違いがあることで、途端に対話が始まるようになる。子供同士を結び付け、対話のきっかけをつくり出すことが、これからの ICT 活用である。

＜参加者の感想(一部抜粋)＞

○子供たちが主体的・対話的に学ぶためのポイントをたくさん教えていただいた。研修後、子供たちの主体的な姿をたくさん探し、様々な視点で価値付けできるよう意識している。声かけの仕方一つで子供たちのやる気スイッチを押すことができると改めて感じた。

○主体的・対話的で深い学びとなるよう、授業の中で自己選択させたり、振り返りの時間を大切にして自己調整させたりして、日頃からできることを少しずつ取り組んでいきたいと思った。教えていただいた、たくさんのエッセンスを自分の学校、学級で広め、子供たちの育成に努めたいと思った。

○振り返りの大切さや効果的な振り返りの仕方について、具体的に教えていただいた。また、「分からない」と言える学級をつくり、「子供同士がつながる授業づくり」を進めていく大切さを感じた。子供をどう育てたいかを考え、子供をよく観て、学級づくり、授業づくりをしていきたい。

講演 講師 大妻女子大学 家政学部児童学科 教授 澤井 陽介 先生
演題 「資質・能力を育む授業づくりと学習評価」

講演では、「指導と評価の一体化」という視点から、評価の捉え方を中心に、評価を指導にどう生かして課題解決型の授業づくりをすればよいかを学びました。また、日頃、評価について抱いていた悩みや疑問等を一人一人から拾い上げ、丁寧に教えていただくことで、評価に関して理解を深めるとともに、参加者同士が情報共有をすることができました。（以下、概要）



〈澤井先生による講演〉

1 協働性のある校内研究（研修）のススメ

【校内研究の充実と活性化】…若手教員が増えている現状では、若手教員が授業を提案するだけでなく、経験の豊かなベテラン教員が参考となる授業を提案し、互いの授業力を高めていく。

【組織力で高める校内研究】…多忙感が問題になっている今こそ、教員の得意分野を生かして指導における財産を伝え合い、共有することで、個を高め、学校全体としての指導力を蓄える。

【ボトムアップでつくる校内研究】…研究主任がテーマを決定するのではなく、目指す子供の姿として研究テーマの方向性を決めておき、各教員が、「主体的な学びについて」「対話的な学びについて」等の手立てを工夫し、互いの取組や実践を情報交換しながら、テーマを絞っていく。

2 学習評価に関する基本的な考え方

【評価規準】…「どのようにできたか」「どのように分かったか」など、授業における子供たちの学習状況を評価するために、場面設定をした達成状況を確認する指標であり、学習活動に即している必要がある。

【目標に準拠した評価】…学習指導において、「目標を設定する」「その目標を細かく分析し、評価規準を設定する」「評価規準に該当する子供の姿を思い描く」「その姿が出現するように指導を行う」「出現した子供の姿を評価する」など、全てを教師が一人で行うため難しさを伴うが、「妥当性」が求められる。

【指導と評価の一体化】…「学習目標を明確にする」「目標に向けた指導を行い、評価する」「評価結果を指導改善に生かし、子供の姿が学習目標に達するようにする」など、指導と評価を切り離すことはできない。

3 資質・能力を育む授業づくり

【課題解決型の授業づくり】…子供が、自ら資質・能力を働かせながら、学習に取り組んでいくように工夫することで、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について、バランスよく評価を行うことができる。

【主体的に学習に取り組む授業づくり】…「選ぶ」「決める」「自力で追究する」など、授業の場面設定を工夫することで、子供が自分事としての振り返りを行い、自己調整をしながら、主体的に取り組むようになる。

【対話的な授業づくり】…発言する子供を勇気と思いやりをもって支える聞き手となるように、周りの子供を育てることが大切である。

〈参加者の感想(一部抜粋)〉

○若手教員が多くなり、実効性のある研究の在り方について考えていたところ、よいヒントをいただくことができた。協働的な研究の姿勢を忘れず、今後に生かしていきたい。

○評価とは、指導につなげるものであり、その評価を基にして授業改善を行い、評価と授業改善のサイクルを回していくことが重要であることがよく分かった。

○授業の中で、子供たちに学習課題や評価規準等を明確に示すことができるよう、教材研究に力を入れていきたいと思った。2学期に向けて準備し、自信と妥当性をもって指導していきたい。

○評価について詳しく解説をしていただき感謝したい。多忙な毎日だが、授業の中で「主体的に学習に取り組む態度」の評価ができるよう、問題解決型の学習とともに振り返りを大切にしていきたい。

講話 講師 学力向上推進チーム 教育専門員 高浦 智美 先生
 演題 「全国学力・学習状況調査を活かした学力向上の取組
 ～とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）と結び付けて～」



＜教育専門員による講話＞

小・中・義務教育学校教務主任会夏季研修会と連携して、学力向上推進チームより講師を招き、アラカルト研修会を開催しました。今回は、中学校区ごとにチームとなり、「小中連携作戦会議」として、それぞれが持ち寄った調査結果データを、各校における子供たちの授業の様子と照らし合わせ、設問ごとに「我が校」の成果や課題について検討しました。また、タブレット端末に入力した内容を共有して、授業改善や学力向上に向けて話し合う場面を設けながら、研修が進められました。

＜研修の概要＞

1 改めて「学力」とは

【子供たちに求められる「確かな学力」】…知識や技能に加え、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等を含めたものである。

【とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）】…確かな学力につながる問題発見・解決能力の育成のため、「問題意識を高める」「自己調整しながら学習する」という視点から授業改善に取り組む。

【全国学力・学習状況調査の問題】…学習指導要領が求める「資質・能力」が、具体的な設問を通して示されている。また、調査問題の場面設定自体が、授業における学習活動の例示になっている。このことから、今求められている「教育の方向性」が示されている。

2 質問調査をヒントに行う授業改善推進作戦

【質問紙調査の活用】…学習指導要領が求めるメッセージとして捉え、質問調査の結果を把握・分析し活用することで、学校の教育活動や学習指導の改善・充実に有効に働く。

【小中連携作戦会議】…児童生徒質問調査の結果と実際の授業の様子から、「我が校」でこれからも続けたいこと・改善したいことについて、個人がキーワードをシートに記入し、チームで共有し話し合うことで、新たな気づきにつながる有効な方法である。

【授業場面における自己決定の場の提供（生徒指導提要から）】…生徒指導の実践上の視点として、学習指導と生徒指導が相互に深く関わり、一層の充実を図ることが重要であると示されている。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をするなど、とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）の取組を進めることで、子供の学びに向かう力の高まりや自己肯定感の向上につながり、主体的な家庭学習にもつながっていくようになる。

3 調査結果に基づく国語力アップ作戦

【国語の授業づくり（例）】…学習指導要領の趣旨を踏まえた指導を行う。①学習指導要領（巻末「付録4」）から、単元で身に付けるべき資質・能力と指導事項を確認する。②子供が、課題をもち、自己調整をしながら、資質・能力を身に付けられるよう言語活動を工夫する。

【授業改善に向けた授業アイデア例の活用】…調査結果から、子供のつまずきに対応し、単元を通した例示となっている「授業アイデア例」を活用することで、有効な授業研究等を行うことができる。

【校内研修で調査結果の活用】…調査学年や教科担当だけでなく、結果と実際の子供の様子をつなげて学校全体で考えることで、課題と解決への道筋が見えてくる。